

審議会委員から提出されたご意見・ご提案に対する考え方

1 減量・資源化を効果的に進めるための取り組みについて

分類	主な意見等	考え方	状況の分類			
			継続中	新規着手済	短期的検討	中長期的検討
分別促進	ごみの分別の徹底と促進を図るため、周知を実施することが大切	市広報・ホームページでお知らせするとともに、各種イベントに参加して、ごみの分別に関することなどの啓発活動を行っています。また、ごみ政策課の窓口に来られた方に、「分別お試し袋」を配布し、分別の意識を向上してもらうよう取組を行っています。様々な方法で呼びかけを継続していきます。	●	●		
古紙分別	<ul style="list-style-type: none"> 分別されずに可燃ごみとなっている古紙が多いことから、分別を促進し、古紙回収量を増やすことが効果的。 リサイクル庫を増やすなどの回収方法の検討が必要 	可燃ごみとして捨ててしまいがちな、お菓子の箱や封筒、メモ用紙、トイレトペーパーの芯などもリサイクルできるものです。ごみを減らすためにも、きちんと分別をしていただき、リサイクル庫を有効に活用してもらえよう、様々な方法で協力を呼びかけていきます。	●			
水切り	生ごみの水切りは、市民一人ひとりの意識により、コストもかからず効果が大きい。	一般的に水切りすることで生ごみの重量を10%減らすことができるとされています。6月の広報でも取り上げさせていただきましたが、ホームページやごみ分別アプリなどを活用して、呼びかけを継続していきます。	●			
店頭回収	スーパーなどで行う店頭回収が効果的。	<p>スーパーマーケットなど民間事業者の店頭で実施している資源の店頭回収を市民の皆様が積極的にご利用いただくことで、市が処理する分のごみの減量につながるようになります。</p> <p>店頭回収実施事業者の情報につきましては、市民の皆様が簡単に検索できるよう、ごみ分別アプリで地域別に掲載しています。</p> <p>また、地図情報の「さーちずまえばし」にも掲載し、実施している場所が簡単に検索できるよう、お知らせを開始しましたので、ご活用ください。</p>		●		
啓発	<ul style="list-style-type: none"> ごみ処理に一人当たりいくらかかっているかや、分別の必要性について、広報・ホームページで周知する。 削減量の具体例を例示し、モデル的な生活などをPRする。 	<p>広報やホームページなどで、ごみの搬出量の推移や費用面などを分かりやすくお知らせできるよう、内容などにも工夫を凝らして、継続的に啓発を行います。</p> <p>また、ごみ減量に向けたモデル的な事例を紹介できるよう、生ごみ処理機や段ボールコンポストを利用されている方にアンケート調査を実施して、現在、取りまとめを行っているところです。参考になる事例をお知らせできるようにしたいと考えております。</p>	●	●		
指定袋	<ul style="list-style-type: none"> ごみ減量・資源化を進めるため、可燃ごみと資源ごみ等についてごみ袋の色分けをし、分別の徹底を図ることを検討。 ごみ袋をカラスが嫌がる色にするなど改良する。 	指定袋の変更は、昨年度、準備を進めましたが、原料価格や消費者物価が高騰したため、生活への影響が生じていることもあり、指定袋の変更を一時保留としています。しかし、ごみの減量・分別の促進に大きな効果を見込んでおりますので、引き続き検討していきます。			●	

分類	主な意見等	考え方	状況の分類			
			継続中	新規着手済	短期的検討	中長期的検討
収集	ごみ収集サイクルを見直し、プラの日を増やすことで、一般ごみからプラごみに回る量の増加を図る。	<u>プラスチック資源循環促進法の施行により、プラスチック製品との一括回収への対応が必要となる際には、全体的な見直しを考えていきます。</u>				●
連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ルール違反ごみは、集積所での自治会や環境美化推進員、住民の方の協力が必要なことから、連携しながら排出ルールの徹底を促す。 ・群馬県環境アドバイザーとの連携、協働を行う。 	<p>ルール違反ごみを減らすためには自治会や環境美化推進員など、地域の皆さんの協力が必要なため、引き続き連携を図ってまいります。</p> <p>今年度の新たな取り組みとして、イベントへのブース出展時に、環境アドバイザーと連携して段ボールコンポストや食器リユースの啓発を行いました。</p> <p>今後も各種連携をしていきます。</p>	●	●	●	

2 今後の古紙回収事業のあり方について

分類	主な意見等	考え方	状況の分類			
			継続中	新規着手済	短期的検討	中長期的検討
集団回収	集団回収の付加価値は大きく、地域活動に不可欠な要素であるが、古紙の売却単価が下落しているのであれば、状況を説明して、奨励金を下げることも検討すべき。	<p>有価物集団回収は、<u>ごみ減量だけでなく、コミュニティのつながりなど様々な効果が得られる事業です。</u></p> <p>一部地域では、<u>高齢化が進んでいて、集団回収の実施継続が難しくなってきたりなどの課題も見られますが、持続可能で時代に即したよりよい運営を目指します。</u></p>			●	●
事業系古紙	紙リサイクル庫排出事業者登録制度について、前橋市再生資源事業協同組合と連携し、リサイクル庫への持ち込みを禁止することを検討。	<p>紙リサイクル庫排出事業者登録制度につきましては、<u>本年11月末をもって、リサイクル庫への搬入受入れを終了いたしました。</u></p> <p><u>前橋市再生資源事業協同組合及び組合加盟の各古紙問屋の協力により、相談窓口を担うとともに、直接搬入の増加に対応いただくことで実現することができました。</u>今後も、前橋市再生資源事業協同組合と幅広く連携してまいります。</p>		●		